

白山ふるさと文学賞

第六回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

中高校生作文の部 優秀賞

周りに目をむけた生き方とは？

松任中学校二年

森田 もりた

隼史 はやと

私は、正直な話、今まで生きてきた十三年の人生の中で「生き方」について、深く考えた事はありません。毎日、両親からは「勉強しなさい」ばかり耳にタコができるくらい言われ続けてうんざりしています。「何の為に勉強するのか」それさえも私はよく分からずに、なんとなく勉強しているのが現状かもしれません。両親は、すればするほど、たくさん知識が身に付き自分の将来のやれる事を選択肢が広がるから、その自分の将来の為に勉強を怠るべきではないと言います。勉強だけが人生に大切だとは思いますが、考えてみれば、自分で生き方を選択できるという事は本当に幸せなことなのではないのでしょうか。

世界には貧困に苦しむ人々がいる国が数多くあります。そこに生まれた人々は、自ら生き方を選択することさえできず、ただ生きていく為に、幼い頃から危険で過酷な労働をさせられています。学校に通い学ぶことさえも許されない人生を送っています。それに比べ私は、こんなに恵まれた国に生まれ、自由に学ぶことができるのだから一生懸命に学ぶべきだと思います。

しかし、豊かな国に生まれても障害をもって生まれた人、事故や病気によって障害をおってしまいそのせいで生き方を自由に選択することができなくなってしまう人達もたくさんいます。

私は、六歳の時に脳の病気がかかりました。まだ幼かったので、病院に入院していたことと、長い間毎日、薬を飲んでいたことぐらいしか記憶に残っていません。でも入院当時に、医師から、脳とせきずに異常があるから脳や手足などになんらかの後遺症が残るかも知れないと親は言われていたそうです。幸い後遺症は無く元気になりましたが、誰でも障害者になりえるんだなと思いました。世の中には障害をもっている人より、もっていない人の方が多いから障害者イコール特別という意識をもってしまうのかも知れません。頭では特別な目で見てはいけないという事は分かっていますが、でもみんなと同じように接するのはなかなか難しいことです。でもみんなが障害をもった人を認め、受け入れることで障害

者の生き方さえも変えていけるのではないのかと私は思います。

去年、神奈川県障害者施設で元施設職員の男によって、入居者の十九人も命をうばう事件が起きました。犯人の男は、「障害者は不幸しか作れない。いない方がいい。」や「殺害した自分は救世主だ。日本のためにした。」などと供述したそうです。こんな身勝手な理由で多くの人達の人生をうばうなんて考えられません。しかも事件を起こしたその施設での労働の過去があり、普通の人より障害者に対する偏見などあつてはならないのに、どうしてこんなに恐ろしいことが起こるのでしょいか。

僕は十月の職場体験で「社会福祉法人松の実園」という所にいきます。そこには色々な障害者の人達があります。私は障害者の人と接するのは初めての体験なので始めはどう接していいのかとまどってしまうかも知れません。なのでまずは友達のようにふれ合ってみようと思っています。その人達の生き方を変えることなんて、職場体験のたったの三日間でできるとは思えませんが、少しでも障害者の人達が楽しく過ごすことができるようにしたいと思っています。私自身の生き方はその三日間の体験の中で将来、大人になった時に少しでも役立てられるようなことが、まなぶことができれば良いと思います。

自分自身が与えられた環境の中で、より自由により良い生き方を選ぶ人生も大事だし、他人の生き方にもより良い方向へ導いてあげられるようなそんな良い生き方をめざして、がんばっているいろいろなことを学んでいきたいと思っています。